

重点取組分野	令和 元 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①問題解決能力を育てるために、学習課題の明確化を図り、学習の振り返りを行う授業を推進する。 ②基礎・基本の定着をめざすために、授業の質的向上を図ると共に、少人数指導を効果的に取り入れる。	①既習事項を生かし、主体的に課題づくりができるように、振り返りを大切にPDCAを心がけた。②ペアやグループ、少人数など学び合いを大切に学習づくりを行った。意欲を育て理解を高めることができた。算数では少人数学習にすることで基礎基本の定着につながった。	B
豊かな心	①人権意識をベースにした学級経営を行う。安心集会やなかよし活動で他学級や異年齢が関わる機会をもつ。 ②対処・対応だけでなく、予防・開発につながる取組として「さぶやまスタンダード」を充実させる。	①安心集会やなかよし集会で他学年や他学級の交流することで人と関わるよさや、仲間と協力することの大切さが育った。 ②「さぶやまスタンダード」を通して、課題のある児童への支援や安心できる場づくり、手立てを学年や全職員で話し合い取り組むことができた。	A
健やかな体	①様々な機会を通して自分の体について知り、健康管理できるよう、家庭と連携しながら生活習慣を整えられるようにする。 ②体を動かして遊ぶことを推奨し、体育や集会などを通して、運動に慣れ親しみ体力の向上を図る。	①児童保健委員会の活動や各教科の学習、出前授業、各学級での取り組みを通して、手洗いやうがい、風邪の予防、食育など自分の健康を守ることを進んで考え実行できるようになった。②体育を中心に、行事、休み時間などを使い、体を動かす機会を大事にして体力の向上に努めた。	B
重点研究	①学習課題を自分ごととしてとらえ、協働して話し合いながら展開する授業づくりを行う。 ②自分の身につけた力を次の学びに生かしていくことで、主体的な学びを実感し、自己肯定感を養うようにする。	①算数の研究が2年目となる。学習課題を子どもと共に考えたり、身近なことと関連させたりしたことで課題が自分ごとになった。②振り返りを大切にすることで、基礎基本が定着し、既習事項を次の学びに生かしたり自信をもって意見交換をしたりする姿につながった。	B
ユニバーサルな環境づくり	①研修や児童理解の時間を設定し、職員全体で子どもの見取りと対応を行い、子どもに寄り添った学習を目指す。 ②必要な児童の個別支援計画・個別指導計画を作成し、指導、支援に活用する。	①児童指導人権部を中心に学年の児童について全校で共有できるようにした。子どもとの関わり方など方針が共有でき子どもの安心につながった。②作成された個別支援・指導計画をもとに子どもの支援について保護者と話し合うことができた。職員が日々どう活用していくか考えていた。	B
学校運営協議会	①学校地域コーディネーターを中心とした「さぶやまポラネット」に学校の安全や学習、環境整備などの支援をお願いし、子どもの安全や教育活動の充実を図る。 ②目標を共有化し一体となって子どもを育むために、学校運営協議会の活動を積極的に発信する。	①ポラネットを中心に多くの支援をいただき子ども達が学校を大切に思う人たちのつながりをもつことができた。子どもたちの自己肯定感を高めることにもつながっている。②運営協議会やポラネット運営委員会などを中心に学校と一体となって活動していることを保護者にこれからもしっかりと伝えたい。	A
安全教育	①登校班会議を通して、登下校の安全を自分ごととしてとらえ、安全意識を高める。 ②年間を通して段階的に避難訓練を行い「自分の身は自分で守る」意識を育てる。総合防災訓練では幼児小で連携して地域としての防災意識を高める。	①登校班会議で、自分たちの登校の様子をふりかえることができた。集団登校が終わった後も登下校の安全について意識を継続させていきたい。②避難訓練では約束を意識してスムーズに避難できた。総合防災訓練は暑さもあり内容等考えていきたい。	B
	a23		
いじめへの対応	①人権意識をベースとした児童理解や学年・学級経営を行い、情報を共有して組織的に対応する。 ②学校・家庭・地域が協働して取り組む。いじめ防止の指導や人間関係づくり、教育相談などの研修を行い、教職員の指導力向上を図る。	①学年研を中心に児童について話し合いそれを児童指導部会で共有し、更に必要に応じて学校全体で共有した。②YPやアンケートなどを行い、いじめ防止について取り組んだ。解決について学年や校内で共有した。様々な取組が家庭や地域に伝わるようにした。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	①経験の浅い教職員を中心にメンターチームとして組織し、10年目以降の教職員がリーダーとなり年間を通して研修活動を継続して行う。 ②グループウェア等を活用して、情報の共有化を図るとともに「電子システム」を活用し事務の簡便化、効率化を図る。	①メンター研ではリーダーを中心に教科指導、児童指導、学級経営などについて研修した。研究授業も行い授業力の向上に努めた。②グループウェアの活用により資料のデータ化による効率化や打ち合わせ時間の短縮ができた。	B
ブロック内評価後の気づき	◇3校で情報交換したり、下永谷小の授業参観をとおり、それぞれの良いところを取り入れることができた。 ◇人権推進校として研修をブロックで行った。また授業公開も行き、人権の視点での授業研究会を行った。 ◇挨拶、時間を守る、話を聞くことを大切に、3校で育てる子どもの姿の具体を実践した。 ◇ブロックでの育てたい子ども像の具現化に向けて、学級経営や授業づくりをこれからも改善していきたい。		
学校関係者評価	◇「まちのみんなひとつになあれ」の理念のもと教育活動を続けていることが定着して子どもへの信頼感につながっている。地域に支えられていることを子供が実感しているので、落ち着いた学校風土や素直な子ども達の姿に現れている。◇地域とのかかわりは一方方向でなく、リターンのある関係になっていることがよい。地域と就学前からつながっていて、また卒業後もつながっている。人との付き合いのスキルなどは地域とのつながりの場でも自然に育まれる。◇本校の地域とのかかわりをこれからも継続していきたい。		
中期取組目標振り返り	◇「まちのみんなひとつになあれ」の教育理念のもと地域とのかかわりを大切にしながら、教育活動を進めることができた。様々な案件があったが、地域に温かく支えられ対応することができた。◇学校が安心して過ごせる場となるよう人権意識をベースにした学年・学級経営を行った。安心して授業に参加できるという視点で授業改善を考えることができたことはよかった。今後につなげたい。◇生活アンケートやいじめアンケート、安心集会、さぶやまスタンダードなど相互に関連付けている今の取組から、落ち着いた学校風土がつけられている。今後も充実させたい。		

重点取組分野	令和 2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①課題の明確化を図り、自らの学習を生かして次の学習に向かうことができるように振り返りを大切に授業づくりを行い、問題解決する力を育てる。②協働して問題解決できるように、意見を安心して聞き合ったり話し合ったりする力を育てる。		
豊かな心	①人権意識をベースにした学級経営を行う。安心集会やなかよし活動で他学級や異年齢が関わる機会をもつ。 ②「さぶやまスタンダード」を充実させ児童指導上の課題の予防や開発に努める。		
健やかな体	①様々な機会を通して自分の体について知り、自分で健康管理できるように家庭と連携しながら生活習慣を整える。 ②体を動かして遊ぶことを推奨し、体育や集会などを通して運動に慣れ親しみ体力の向上を図る。		
重点研究	①学習課題を自分ごととしてとらえ、協働して話し合いながら展開する授業づくりを行う。 ②自らの学習を振り返り、次の学びに生かしていく学びに向かう力を育てる。 ③育てたい力を明確にし学びの姿をとらえ、指導と評価の一体化を図る。		
ユニバーサルな環境づくり	①研修や児童理解の時間を活用し職員全体で子どもの様子を理解し、寄り添った指導を目指す。 ②個別支援計画・個別指導計画を必要児童について作成し、職員や家庭が連携して指導、支援を行う。		
学校運営協議会	①学校地域コーディネーターを中心とした「さぶやまポラネット」に学校の安全や学習、環境整備などの支援をお願いし、子どもの安全や教育活動の充実を図る。②地域と一体となって子どもを育むために、目標や理念の共有のために、運営協議会の活動を積極的に発信する。		
安全教育	①登校班会議を通して、自分たちの登校の様子をふりかえることができた。集団登校が終わった後も登下校の安全について意識を継続させていきたい。②避難訓練では約束を意識してスムーズに避難できた。総合防災訓練は暑さもあり内容等考えていきたい。		
	b8		
いじめへの対応	①人権意識をベースとした児童理解や学年・学級経営を行い、情報を共有して組織的に対応する。 ②学校・家庭・地域が共同して取り組む。いじめ防止の指導や取組、人間関係づくりや教育相談の研修を行い、教職員の意や指導力の向上を図る。		
人材育成・組織運営(働き方改革)	①メンターチームを組織し、市のリーダー研やマネジメント研の教員がリーダーとなり、ニーズに応じた研修を年間を通して行う。 ②グループウェアや電子システムなどを活用し効率化・簡便化を図る。 ③会議の仕方を工夫し時間短縮と効率化を図る。		
ブロック内評価後の気づき	◇3校で情報交換したり、下永谷小の授業参観をとおり、それぞれの良いところを取り入れることができた。 ◇人権推進校として研修をブロックで行った。また授業公開も行き、人権の視点での授業研究会を行った。 ◇挨拶、時間を守る、話を聞くことを大切に、3校で育てる子どもの姿の具体を実践した。 ◇ブロックでの育てたい子ども像の具現化に向けて、学級経営や授業づくりをこれからも改善していきたい。		
学校関係者評価	◇「まちのみんなひとつになあれ」の理念のもと教育活動を続けていることが定着して子どもへの信頼感につながっている。地域に支えられていることを子供が実感しているので、落ち着いた学校風土や素直な子ども達の姿に現れている。◇地域とのかかわりは一方方向でなく、リターンのある関係になっていることがよい。地域と就学前からつながっていて、また卒業後もつながっている。人との付き合いのスキルなどは地域とのつながりの場でも自然に育まれる。◇本校の地域とのかかわりをこれからも継続していきたい。		
中期取組目標振り返り	◇「まちのみんなひとつになあれ」の教育理念のもと地域とのかかわりを大切にしながら、教育活動を進めることができた。様々な案件があったが、地域に温かく支えられ対応することができた。◇学校が安心して過ごせる場となるよう人権意識をベースにした学年・学級経営を行った。安心して授業に参加できるという視点で授業改善を考えることができたことはよかった。今後につなげたい。◇生活アンケートやいじめアンケート、安心集会、さぶやまスタンダードなど相互に関連付けている今の取組から、落ち着いた学校風土がつけられている。今後も充実させたい。		

重点取組分野	令和 3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	c1		
豊かな心	c2		
健やかな体	c3		
重点研究	c4		
ユニバーサルな環境づくり	c5		
学校運営協議会	c6		
安全教育	c7		
	c8		
いじめへの対応	c9		
人材育成・組織運営(働き方改革)	c10		
ブロック内評価後の気づき	◇3校で情報交換したり、下永谷小の授業参観をとおり、それぞれの良いところを取り入れることができた。 ◇人権推進校として研修をブロックで行った。また授業公開も行き、人権の視点での授業研究会を行った。 ◇挨拶、時間を守る、話を聞くことを大切に、3校で育てる子どもの姿の具体を実践した。 ◇ブロックでの育てたい子ども像の具現化に向けて、学級経営や授業づくりをこれからも改善していきたい。		
学校関係者評価	◇「まちのみんなひとつになあれ」の理念のもと教育活動を続けていることが定着して子どもへの信頼感につながっている。地域に支えられていることを子供が実感しているので、落ち着いた学校風土や素直な子ども達の姿に現れている。◇地域とのかかわりは一方方向でなく、リターンのある関係になっていることがよい。地域と就学前からつながっていて、また卒業後もつながっている。人との付き合いのスキルなどは地域とのつながりの場でも自然に育まれる。◇本校の地域とのかかわりをこれからも継続していきたい。		
中期取組目標振り返り	◇「まちのみんなひとつになあれ」の教育理念のもと地域とのかかわりを大切にしながら、教育活動を進めることができた。様々な案件があったが、地域に温かく支えられ対応することができた。◇学校が安心して過ごせる場となるよう人権意識をベースにした学年・学級経営を行った。安心して授業に参加できるという視点で授業改善を考えることができたことはよかった。今後につなげたい。◇生活アンケートやいじめアンケート、安心集会、さぶやまスタンダードなど相互に関連付けている今の取組から、落ち着いた学校風土がつけられている。今後も充実させたい。		